

# Sesame allergy threshold dose distribution

[Dano D](#)

[Food Chem Toxicol.](#) 2015 Sep;83:48-53



## ゴマアレルギー閾値の分布

### 背景

ゴマはフランスでは重要な食物抗原である。

他の食物抗原と比べて食物負荷試験のデータが不足している。より多くのデータがあればゴマアレルギーのリスク管理の助けになる。

この研究の目的はより多くのゴマ負荷試験のデータを集めて、将来の研究のために最も効果的な食物負荷試験の方法を調べることである。

## 方法

ナンシー（フランス）の大学病院での患者記録よりゴマ負荷試験での客観的症候を集積し、以前の文献のデータと比較した。

ゴマアレルギーの閾値の評価は各個の副反応無しレベル（NOAELs）と最も低い副反応レベル（LOAELs）に基づいて計算した。

ナンシーで臨床での負荷計画が現在使用されているゴマの最善のプロトコールかどうかを調査した。

## 結果

客観的症候を伴う 14 人の患者（男 10 名 女 4 名 平均年齢  $22 \pm 14.85$  歳）が以前の研究と併せて計 35 名とした。

最も敏感な患者は 1.02mg ゴマタンパクの最初の量で反応した。

**ED<sub>05</sub> (5%の患者が反応する量) はゴマタンパク 1.2 と 4.0mg の間であった。ED<sub>10</sub> は 4.2 と 6.2mg の間であっ**

た。

**Semi-log に基づくゴマ負荷試験最高量は 0.3 から 3000mg であった。**

## 結論

この論文はゴマの NOAELs と LOAELs に関する臨床的文献を最新のものにした。

ゴマの閾値の確率は予防目的のラベルの信頼性を増すのに役立ち、予期しないアレルギー反応に伴うコストを下げる。また最適量の使用は診断のための時間を節約し、ゴマアレルギー診断の経済的な負担を軽減する。

コメント；

ゴマの負荷試験は慎重に行う必要がありますが、注意しながら行えば大丈夫です。